

(3) 投資・財政計画（収支計画）に反映させる取組や

今後検討予定の取組の概要

①投資についての検討状況等

ア 施設・設備の廃止・統合（ダウンサイジング）

水道施設更新計画で、西平浄水場及び本郷高区配水池の廃止を計画し、更新費用の削減を図ります。

イ 施設・設備の合理化（スペックダウン）

和田受水場の老朽設備（ポンプ・電気設備等）の更新に合せ、送水ポンプの基数減と電力の低圧化を実施します。

また、老朽管更新でも、必要水量や配管網を見極めながら、給水への影響に注意しつつ、口径減を検討します。

ウ 施設・設備の長寿命化等の投資の平準化

状態の良い施設については更新費用が平準化されるよう、適切な時期に更新を先送りにします。

エ 広域化

水道事業を取り巻く環境は厳しさを増しており、有効な解決策の一つとして広域化が挙げられます。埼玉県では、平成42年度を目標に、全県を12のブロックに集約する統合を推進しています。

ときがわ町としても、県・近隣事業体との連携を図りつつ、広域化に前向きに取り組んでいきます。

②財源についての検討状況等

ア 料金

イ 企業債

建設改良費の見込みと元金償還額の見込みを照らし合せながら借入を行っていきます。

企業債借入額は、人口減少社会においては、現役世代が負担すべき費用を将来世代への過度の負担につながることから、企業債残高を低減させる必要があります。

借入先は財政融資資金又は地方公共団体金融機構ですが、より有利な借入先を検討するため、研究をしていきます。

ウ 繰入金

エ 資産の有効活用等による収入増加の取組

一時的に余剰となっている現金預金については、年間の支払い状況を考慮しながら、たとえ短期間であっても利率の有利な定期預金で運用するなど、細かな資金運用をしていきます。

オ その他

更新需要が増加し、多額の建設改良費が必要となるなか、適正な額の内部留保資

を確保することにも留意する必要があります。

③投資以外の経費についての検討状況等

ア 委託料

管理部門に係る包括的民間委託について調査研究を進め、効果が見込まれるか否かを検証する必要があります。

イ 修繕費

老朽施設の増加に伴う長寿命化のための費用などが増加する要因です。

ウ 動力費

将来の水需要減や、給水エリア見直し事業による省エネ化により、長期的には減少するものと思われます。

エ 職員給与費

今後想定される更新事業の増加に対応するには、これ以上の人員削減は難しいことから、給与費については現状維持を見込んでいます。

オ その他の取組

有収率の向上は、ときがわ町にとって重要な課題ですが、流量計を増設し監視体制を強化するなどの、取組も必要になります。

薬品費は、将来の水需要減や、注入量管理の強化により減少させることが可能になります。

8. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

PDCAサイクル（Plan：計画、Do：実行、Check：検証、Action：見直し・改善）を活用し、計画の実施状況の進捗管理を行います。

なお、社会情勢の変化等により計画と実績との乖離が著しい場合は、事業の見直し等についても検討します。